青山学院中等部

算数
基本的な問題を幅広い分野から出題します。それぞれの問題は、原則として独立していますが、枝問のある大問もあります。

国語
あらゆる文章から出題します。知識・語句などは、読解総合問題のなかで問い、漢字は独立した問題として出題します。

理科
物理・化学・生物・地学の 4 分野からまんべんなく出題します。小問 5 問を集めた大問と合わせて 5 題です。

社会
地理・歴史・政治経済の 3 分野からおよそ 2：2：1 の割合で出題します。それぞれの分野の重要語句は、漢字も含めて正確に覚えてください。

穎明館中学校

算数

規則を正確に理解・適用し、敏速に計算ができるかどうか、情報処理能力、論理的思考力、数的直観力があるかを問います。まず計算問題と小問集合、そして大問が 3 題という構成です。最後の 1 題では途中の式・計算・図や考え方をかく問題も出題します。不正解であっても部分点を与えることがあります。

国語

文章読解問題を、一般入試では 2 題（小説と論説）、総合入試では 1 題（論説または随筆）出題します。ともに幅広い設問をバランスよく出すことを心がけており、小説では人物の心情や情景描写・表現など、論説では主題や論拠の把握・文法などを問います。いずれも記述問題（2～3 問前後、トータル 150 字程度）が含まれており、読解力・思考力・表現力を問います。このほかに小学校での学習漢字・ことわざ・四字熟語など語句問題の出題もあります。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野から出題します。理科に興味を持ち、観察や実験にきちんと取り組むことができるかどうか、基礎的な知識と科学的な思考力があるかなどを問います。絵を描く問題も出題することがあります。

社会

一般入試では、歴史中心の大問が 1 題と地理中心の大問が 1 題、計 2 題を出題します。総合入試では、歴史と地理を融合した大問 1 題を出題します。いずれも基本問題ですが、地図・統計・年表・写真・絵などを多用して、知識の確かさと広さ、理解の深さをいろいろな角度から問います。それぞれ数は多くありませんが、公民の問題も出題します。日本の政治・経済・社会についての基礎的知識だけでなく、時事的な問題もあります。

桜美林中学校

算数

総問題数は 20 問で、計算問題、逆算による穴埋め問題が 2～3 問、短い文章で完結する小問が 8～9 問です。ここには〇〇算といわれる問題や、面積・体積を問う問題が含まれます。残りの大問は 4 題で、速さを利用する問題や特殊算などです。基本的な内容が中心なので、計算ミスがないよう注意してください。

国語

漢字や語句、表現の問題では正しい知識が必要です。日ごろから本や新聞を読むこと、正しい日本語を使うことを心がけましょう。長文読解問題は、小説・物語文と論説文・説明文から 1 題ずつ出題します。どちらも 3500～4000 字程度です。小説・物語文では、登場人物の心情や動き、作品の表現が中心になり、論説文・説明文では、全体や部分の内容を正確に理解したかを問う問題が中心になります。

理科

大問は 3 題です。一つの大問の中に複数の分野にまたがるような問題や、時事に関する問題が含まれています。基本的な語句や現象などの知識を問う問題を多く出題していますが、与えられた条件から内容を理解して考察する問題や計算問題も出題します。試験時間 40 分、満点 80 点です。

社会

問題の総数は 40 問前後で、地理・歴史・公民の各分野から出題します。地理は日本の地理を中心にしながら、地域と産業、あるテーマに沿った内容を出題します。歴史は各時代の政治・経済や文化、あるテーマに沿った内容で、公民は政治・経済、国際、時事問題についてです。最近の出来事について調べておくようにしましょう。

かえつ有明中学校

算数

大問1は計算問題で、正確に速く解く計算力を見るために、地道に粘り強く計算する問題と、規則性を見つけ出して工夫する問題をともに出題しています。大問2は一行問題で、基本的な文章題の問題文の読解力と、処理能力を見るために、いろいろな分野から出題します。大問3～6は応用問題ですが、この順番でだんだん難しくなっているわけではないので、すべての問題を見て、解けそうなものから解き始めてください。大問1と2は時間配分を考えること、大問3～6は粘り強く考えることが重要です。解答の形式は、基本的に「答えのみ」ですが、大問6の一部は「記述式」であり、自分の考えをまとめ、表現する力を見ます。ここでは部分点もあります。

国語

基本的な読解力に加え、思考力・表現力を見ます。大問1は説明文で、全体の要旨、段落構成、段落ごとの要点、表現が読み取れるかを問います。大問2の物語文では、場面設定を踏まえたうえで表現、情景や言動から登場人物の考えや思いをていねいにつかみ、文章全体の主題や心情の変化が読み取れるかを見ます。設問は各大問で 10 問程度です。

理科

大問は 2 題から 4 題構成です。大問数が変わっても、生物・化学・地学・物理の各分野から、ほぼ均等に出題することは変わりません。出題内容は、実験に関する問題、図やグラフを用いた問題、作図問題、計算問題、説明問題などです。解答の形式は、選択肢、語句や用語を答える、数値を求める、文章で説明するなどです。

社会

地理・歴史・公民の各分野からほぼ均等に出題されます。大問数にかかわらず問題数は 25 問程度です。知識に加え、図表の読み取り、推理する力、そして時事問題などの形で現代社会への関心を問います。解答の形式は、記号選択、語句、記述などです。社会科の用語は漢字で書けるようにしておいてください。

北里大学附属順天中学校

算数

大きく分けて、「計算問題」「一行問題」「総合問題」の三つです。総合問題は、それぞれ小問 3 問程度からなります。「図形（面積・体積・角度など）の問題」「量の変化をグラフから読み取る問題」「規則性や周期性を見つける問題」「割合に関するさまざまな問題」などから毎年 3 題を出題しています。これらの問題を通じて、①基礎的な計算力が備わっているか、②数や図形の基本的な性質を理解しているか、③与えられた条件から論理的に分析して解答を導き出せるか、④知識を融合させて問題を解決できるかを見ます。

国語

「自然科学や社会科学に関する説明文の主題や内容を論理的に読み取る問題」「小説・物語から登場人物の心情の変化を読み取る問題」の大問 2 題で構成しています。また、「語彙力（漢字の読み書き、ことわざ・慣用句・四字熟語・意味）を確認する問題」をそれぞれの大問に組み入れています。自由作文の問題では、与えられた条件に沿って自分のことばで適切に表現することが大切です。

理科

「動植物の生態や形態について問う問題」「環境について問う問題」「地形・岩石・天体・気象・環境問題について問う問題」「水溶液や気体などについて実験を通して問う問題」「力・電流回路・磁石・光などについて実験を通して問う問題」を出題します。観察力、筋道を立てて考える力、実験方法と結果から考察する力、計算力、問題を解決する力が必要となります。

社会

「日本の特徴的な地域や代表的な産業を問う問題」「日本の歴史事項・文化・対外関係を問う問題」「時事問題・国際問題を含めた政治経済の基本事項を問う問題」「図表や写真資料・グラフなどを見て考えさせる問題」を出題します。日本地誌、歴史の流れ、国の基本的制度などの知識や、事象を結びつけて思考する力が必要となります。また、時事的事項に興味・関心を持っているかどうかも見ます。

英語（第 3 回多面的入試　選択教科）

「リスニング問題」「語法・語彙に関する問題と並べ替え英作文問題」「内容理解問題」の三つで構成しています。これらの問題を通じて、英検®3 級程度の語彙力、リスニング力、短文の構成力、コミュニケーションの場面や話題の理解力、そして、ある程度まとまった英文の理解力を見ます。また、問題に関連した内容の日本語作文力も見ます。

※英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。

国学院大学久我山中学校

算数

〈男子一般・女子 CC 入試〉

大問は 4 題で、基礎学力を見る問題と応用力を見る問題がおよそ半々となっています。1は整数・分数・小数の四則混合計算問題（4 問）、2は標準的な雑小問（7 問程度）で、各分野からまんべんなく出題されます。3、4は大問（それぞれ 4 問程度）で、(1) と (2) が、(3) 以降のヒントになっていることが多くなっています。思考力と表現力が必要となります。難度としては標準的なレベルで、落ち着いて取り組めば解ける問題が多いです。3は答えのみを解答する問題で、4には途中の考え方を答える問題も含まれます。

〈ST 入試〉

第 1 回と第 2 回は試験時間が 60 分で、配点は 150 点です。第 3 回は試験時間が 50 分で、配点は 100 点です。1は標準的な雑小問、2は応用的な雑小問です。3、4は大問で、(1) と (2) が、(3) 以降のヒントになっていることが多くなっています。大問は、読解力と思考力と表現力が必要となります。3は答えのみを解答する問題で、4には途中の考え方を答える問題も含まれます。ST 入試は男子一般・女子 CC 入試よりも問題数が多く、難度も高くなりますが、第 3 回は試験時間の関係で、第 1 回・第 2 回より問題数が少なくなります。計算問題（男子一般・女子 CC 入試の大問1に相当する問題）は出題しません。

国語

〈男子一般・女子 CC 入試〉

長文読解を課す大問 2 題に国語常識問題 1 題を合わせた計 3 題の構成です。長文読解問題のジャンルは小説・随筆・評論など多岐にわたりますが、文学性の高い文章と論理的な文章とを組み合わせて出題し、読解力を問います。問題文の長さは、それぞれ 3000 字前後を目安としていますが、内容によっては、この字数にこだわらずに出題します。配点は、長文読解問題が 35 点×2（長文読解問題それぞれに記述問題が 1 問ずつ）、国語常識問題が 30 点です。国語常識問題では、常用漢字の書き取りや読み取りを中心に、慣用句・故事成語・ことわざ・敬語などを出題します。

〈ST 入試〉

問題構成・配点は、男子一般・女子 CC 入試と同じです（長文読解の大問 2 題 35 点×2 と国語常識問題 1 題 30 点の計 3 題）。もちろん長文読解にはそれぞれ記述問題があります。ST 入試の特徴は、問題文が長いことです。4000 字前後という文章量のなかで正確に読解できる力を問います。本文を読む速さ、適切な箇所を見抜く力など、より高いレベルで必要となります。また、国語常識問題では、男子一般・女子 CC 入試での出題領域に加え、俳句や和歌を取り上げた韻文問題があります。国語に関する知識をしっかり養って臨んでください。

理科

理科の入試問題は「自然現象を通した思考力」を問う狙いがあります。本校で学ぶために必要である学力を問う入試問題です。「教科書の知識だけでなく、受験の定番の問題集レ

ベルの知識が定着していることが前提の出題」となります。過去問を中心に、受験の定番問題集に取り組み、対策をしてください。

〈男子一般・女子 CC 入試〉

大問数は分野別問題 4 題です。物理・化学・生物・地学の全分野からの出題で、基本的な知識・思考力・読解力・計算力を問う問題です。題材としては、教科書や受験の定番の問題集で扱われている内容、ニュースや新聞の記事で話題になった内容から出題します。

〈ST 入試〉

2 月 5 日の ST 入試は理科の問題もあります。大問数は 4 題で、大問[1]は基本的な知識を問う問題、大問[2]～[4]は思考力・読解力・計算力を問う分野別問題となっています。題材は男子一般・女子 CC 入試と変わりありませんが、分野別大問には説明の記述や図示をしてもらう問題を含みます。より高度な思考力を問う狙いがあります。

両入試共にいえることですが、日常生活のなかにある自然現象は、小学校の範囲を超えることもあります。しかし、問題文や図・グラフに必ずヒントが隠されているので、よく読んで考えてください。

社会

〈男子一般・女子 CC 入試〉

大問 2 題で構成され、50 点満点で試験時間は 40 分となります。[1]は社会全般にまたがる総合問題です。わたしたちの生活のなかにある身近な話題をテーマに取り上げます。グラフの読み取り問題をはじめ、考察力・思考力・理解力が求められる出題が中心です。[2]は地理・歴史の総合問題です。地図・図表・グラフを読み取り、知識とつなげて考える力が必要です。歴史は古代から近現代まで幅広く出題します。人名や用語は漢字で正しく書けるように練習しておきましょう。

〈ST 入試〉

大問 3 題で構成され、50 点満点で試験時間は 40 分となります。[1]は社会全般にまたがる総合問題です。わたしたちの生活のなかにある身近な話題をテーマに取り上げます。〈男子一般・女子 CC 入試〉よりも、記述・論述で説明する問題がやや多く、みずからの考えを述べる問題が出題されることもあります。[2]は地理の問題です。〈男子一般・女子 CC 入試〉よりもやや踏み込んだ発展的な問題が出題されることもあります。[3]は歴史の問題です。歴史というと暗記中心と考えがちですが、本校では写真・史料・図表などから読み解く問題を多く出題しています。日ごろから歴史に興味を持って、「考えること」を基本に勉強しておくことが大切です。

サレジアン国際学園世田谷中学校

算数

計算問題、基本的な問題、思考力を問う問題を出します。計算問題では、計算規則を守り「速く正確に」解くこと、工夫することを考えるようにしておきましょう。基本的な問題の対策としては、問題文をしっかり読み取り、必要な計算を行って解答する練習をしてください。思考力を問う問題では、全体の設定を把握し、整理するとよいでしょう。また、途中式を記述する問題だけでなく、自分の考え方を説明する問題もあるので、ふだんから「なぜそうなるのか」を考える習慣をつけるとよいでしょう。

国語

小説（随筆含む）または評論の文章読解の問題が 2 題に、漢字問題を加えた 3 題構成になっています。基礎問題と応用問題、そして思考力を問う問題が出題されます。思考力とは、たとえば本文に関係する内容に関連するテーマの問いが与えられたとき、それについて自分の立場を明らかにして、その理由をしっかり書ける力のことです。問題文を速く正確に読み取り、考えたことをまとめる力が必要になります。2027 年度入試では各回の思考力問題が 1 題となり、その分、字数が増えます。150～200 字程度の意見文をスピーディーに書く練習を積んでおきましょう。そして、漢字や接続詞の問題など、得点できるところは確実に取れるようにしてください。

理科

物理・化学・生物・地学のすべての分野から出題します。基本的な知識を問う問題、応用問題、思考力を問う問題で構成しています。教科書に載っている用語や、基本的な計算問題は必ず答えられるようにしてください。
ふだんから、身近な自然現象や科学技術などに関心を持つようにしましょう。機会があれば実物に触れてみてください。学校でできない実験は、動画サイトなどを活用してみましょう。また、実験・観察を行う際には、自分で結果をまとめ、表やグラフをかく習慣をつけるとよいと思います。

社会

地理・歴史・公民の 3 分野を融合した基本問題と、応用問題から構成される大問（1～2 題）に加えて、思考力問題を出題します。どの問題でも資料を読み取ったり、活用したりする力が求められるので、ただ知識を暗記するだけでなく、資料から情報を読み取り、まとめる練習をすることも大切です。また、時事問題も出題するので、ふだんから社会で起きている出来事やその背景に関心を持ちましょう。試験は、理科と合わせて 50 分・計 100 点です。時間配分にも気をつけてください。

芝浦工業大学附属中学校

【一般入試】

算数

大問は 4 題です。大問1は「聞いて解く問題」、大問 2 は基本的な問題から標準的な問題までを問う小問集合（6 問程度）、大問3・4は代数または幾何の応用問題です。2027 年度入試において、出題構成の変更はありません。

本校の数学科では、答えを導くまでの過程を重視しています。そのため、大問2の一部と大問3・4では、答えだけでなく、式や途中計算、考え方、図などにも配点します。基本的な計算を素早く正確に行う力を身につけるとともに、初めて見る問題でも条件をていねいに読み取り、整理して考える練習をしてください。

国語

小説などの文学的文章と、説明的文章の読解問題をそれぞれ 1 題出題します。文章はそれぞれ 2500 字前後を目安とし、文学的文章では登場人物の心情を、説明的文章では筆者の主張を読み取る力を問います。また、50 字程度までの長さの記述問題を出題しています。文章中のことばを使って答えをまとめる練習をするとよいでしょう。そのほか、韻文（詩・短歌・俳句など）、漢字、語句・文法、聞いて解く問題などを出題します。記述問題では、文章中のことばを手がかりに、自分の答えを適切にまとめる力が必要です。

2027 年度入試では、小問数と記述量を減らし、思考力を問う問題を増やします。日ごろから文章を読み、その内容や根拠を自分のことばで整理する練習をしてください。また、話の内容を正確に聞き取る習慣や、ことわざ・慣用句・四字熟語などの語彙を身につけることも大切です。

理科

試験時間は 40 分で 80 点満点です。物理・化学・生物・地学の各分野から大問 5 題を出題します。このうち 1 題は「聞いて解く問題」です。物理・化学からは少なくとも各 1 題は出題します。2026 年度の大問 6 題から 1 題減らす一方、思考力を問う問題を増やします。

物理では力学・電気・光や音、化学ではものの溶け方・燃え方・水溶液、生物では植物・動物・人体・環境、地学では天文・土地のつくり・気象などが学習上の重要な分野です。単に実験・観察の結果を暗記するのではなく、「なぜその現象が起こるのか」を説明できるようにしてください。図表やグラフから必要な情報を読み取り、条件を整理して、自分の考えを表現する力が求められます。

論理社会

2027 年度入試では、資料を参考にして答える論述問題を、これまでの 2 題から 1 題に変更します。記述量は 100 字前後を予定しています。あわせて、テーマに関連した正誤問題などの小問を出題します。

地理・歴史・公民といった分野の枠にとらわれず、資料を読み取って考える問題を出題します。単純な知識の暗記ではなく、社会科で学んだ知識を活用する思考力、情報分析力、論理

的な表現力を重視します。難しい専門知識がなければ解けない問題ではなく、資料をていねいに読み取ることで考えられる問題を想定しています。新聞やニュースなどの資料を見て、そこから読み取れる事実と自分の考えとを分け、根拠を示して 100 字程度にまとめる練習が役立ちます。

※聞いて解く問題について

算数・国語・理科では、音声から情報を得て内容を理解し、考える力を確認する「聞いて解く問題」を出題します。算数では図形などを耳からの情報でイメージする力、国語では説明や指示を正確に聞き取る力、理科では実験・観察の手順や自然現象に関する説明・会話を理解する力を問います。

【特色入試】

算数

大問は 3 題です。第 1 問から第 3 問までは代数または幾何の問題を出題し、それぞれに複数の小問を設けます。答えだけでなく、途中の過程や考え方を筋道立てて記述する力を重視します。2027 年度入試において、出題構成に変更はありません。

言語技術・探究

大問は 2 題です。1 題はテクノロジー、もう 1 題は社会課題に関連した問題を予定しています。いずれも、答えが一つに定まらない問いに対し、資料を客観的・多面的に読み取り、根拠を示して自分の考えを文章で説明する問題を含みます。

重視する力は、分析力・論理的思考力・表現力・創造力です。身近な出来事や社会の課題に関心を持ち、「なぜだろう」と考え、先入観にとらわれずに情報を整理し、独自性と有用性のある提案をわかりやすく伝える練習をしてください。

【英語入試】

出題レベルは英検®4 級から準 2 級プラス程度を予定しています。2027 年度入試では、従来の上限であった準 2 級程度から準 2 級プラス程度に引き上げます。

リスニング問題、リスニング・ライティング混合問題、リーディング問題を出題します。リスニング・ライティング混合問題では、聞いた内容を理解するだけでなく、それに関する自分の意見や考えを英語で書いて表現する力を問います。

家庭・学校・地域・店舗・電話などの場面や、理工系、家族、趣味、旅行、スポーツ、食事、自己紹介、社会などの題材を想定しています。英語を聞いて必要な情報を正確にとらえる練習とともに、自分の考えを簡潔な英文で表現する練習を重ねてください。

【告知】2028 年度中学入試における「英語資格入試」実施のお知らせ

本校では、2028 年度入試より、「英語資格入試」を実施いたします。実用英語技能検定（英検®）の取得級を得点に換算し、算数の得点とあわせて合否を判定します。

※英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。

渋谷教育学園渋谷中学校

算数

小学校卒業までに身につけてもらいたい計算力や基本的な問題を解く力はもちろん、物事を多面的に見ることができる力や、文章を読解する力なども入試で確認したいと考えています。そこで一部の問題を、途中の式や考え方も記述する形式にしています。具体的には、1は6問中1問が記述式、2以降は、大問3題のうち1題が記述式になっています。

国語

帰国生入試を含め、各回の問題の形式や難度などには変化をつけずに作成しています。難度は前年度と同程度と考えています。出題形式も例年と同様です。文章を読んで設問に答える大問を2題出題します。1題は小説・物語文、もう1題は評論・説明文です。設問は読解問題が中心で、本文をじっくり読み、いかに自分のものにしているかを見たいと考えています。登場人物の気持ちの動きや、筆者の論の流れを自然にとらえられれば、答えやすい問題が多いのではないでしょうか。設問の形式としては、選択式・記述式のどちらも出題しますが、記述を重視しています。字数制限のある問題は、長いもので80字前後です。部分点をつけながらていねいに採点します。一方、漢字や語句などは単独では出しません。いずれも大問2題のなかで出題します。

理科

年度によって出題数・構成・形式などは多少変化していますが、傾向は基本的には変わりません。考える力や表現力をしっかり見たいと思います。4分野（物理・化学・生物・地学）に分けることにはこだわっていません。過去問を見ればわかるように、総合問題も出題しており、理科全体から幅広く出題したいと考えています。

社会

本校の教育目標の一つである「国際人」の育成に注目し、現代の社会情勢に興味・関心を持っている受験生を見極められるような入試問題を作成したいと考えています。出題のポイントは、①「判断力」を問う、②「記述力」を問う、③「社会的関心の高さ」を問う、の三つです。①は、知識をもとにして判断する力があるかどうかを問うということです。統計資料・グラフ・史料・地図などを読み取る力が必要となります。②は、単に物事の正否判定を問うのではなく、因果・背後関係の説明を求めるというものです。ふだんから自分のことばで文章を組み立てる練習が必要でしょう。そして、社会科の学習の基本は、興味・関心を持つことなので、③として、日本や世界に対する興味・関心があるかどうかを問います。時事問題の情報の収集も大切です。

順天堂大学系属理数インター中学校

算数

今年度の入試も前年度と同様、「計算問題」「一行問題」「図形問題」という出題です。計算問題と一行問題の出題数を多めにして、基礎・基本をきちんと身につけているかを重要視します。また、最後の図形問題は思考力も問う出題となっています。

国語

長文読解 2 題（説明的文章・物語的文章)、漢字の読み・書き、ことばの知識をそれぞれ出題します。文章の長さも設問数も標準程度なので、試験時間のなかで十分に解くことが可能です。しかし、論述解答を求めることもあるので、日々のトレーニングが大切です。文章中の表現を利用して解答をまとめる「こつ」を、トレーニングによって身につけ、筆者が何を伝えたいのか、ポイントを押さえて読む練習をしておきましょう。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野より 4 題を出題します。各大問には 5 問前後の小問を設けています。思考力や記述力を問う出題もありますが、多くは標準的な問題なので、基礎的な知識を身につけ、問題集などで演習を繰り返して実力アップをめざすことが大切です。

社会

大問 2 題の構成で、地理・歴史・公民の 3 分野から出題します。基本的な知識を問う小問（記述・4 文正誤）を中心に、短文論述問題も出題します。論述問題では、知識だけではなく、地形図などの資料を読み取る力や、思考力も問われます。日ごろから自分の考えを自分のことばで簡潔に説明することを心がけてください。また、時事的な話題も取り上げるので、日々のニュースに関心を持ち、新聞を読んでおくとよいでしょう。

成蹊中学校

算数

【出題方針】正確な計算力をベースにした算数の力が身についているかどうかを確認します。どの分野からも偏りなく出題することを心がけています。
【問題の傾向】計算問題は必ず出題します。「○○算」「図形」「割合・比」「二つの量の変わり方」など、どの参考書や問題集にも載っている典型的な問題を多く出題します。また、典型的な問題を組み合わせた応用問題も出題します。いわゆる難問といわれるものも出題することがあります。

国語

【出題方針】いろいろな形態のまとまった文章を読む力を見ます。文学（物語文）では、状況を把握し心情を理解する力を、非文学（論説文や説明文）では、論旨や筆者の主張を正確につかむ力を主に測ります。記述問題では、文中のことばをつなぎ合わせるだけではなく、理解したことを自分のことばで的確に表現する力があるかどうかを主に測ります。
【問題の傾向】長文読解問題（文学と非文学）を出題します。理解力と表現力を確認するための、50～75 字前後の記述式問題もあります。また、接続詞・指示語・語句説明・漢字などの基本的な問題も出題します。選択肢の問題であっても、全体を把握したうえで答えるような出題を心がけています。

理科

【出題方針】小学校理科のいろいろな分野からまんべんなく出題し、基礎知識を幅広く問います。基本的に 4 分野（物理・化学・生物・地学）から 1 題ずつです。答えを選択する問題のほか、文章で答える問題や計算問題も出題します。日常生活で見たり触れたりする自然科学に、より興味を持ってもらえるような問題を作成しています。
【問題の傾向】本校での授業の中心となる実験・観察を取り上げた問題を毎年出題しています。図やグラフを用いた問題もあり、データの読み取りや考察の力も重視しています。

社会

【出題方針】知識の量よりも、読解力・分析力や思考力・表現力を重視します。基本的な知識については理解度を重視します。歴史分野・公民分野から各 1 題ずつの 2 題構成で、そこに地理の要素が加わります。2 題のうちの 1 題が長文と資料の読解を中心とした総合問題で、論述問題も含みます。もう 1 題は短文や資料をていねいに読み取って語句や記号で解答する形式が中心です。配点は長文問題 6～7 割、短文問題 3～4 割ぐらいです。歴史と公民のどちらが長文・短文になるかは決まっていません。
【問題の傾向】歴史分野は江戸時代以降から出題します。公民分野は日本や世界の時事問題を出題し、地域格差や国際関係のような地理分野にかかわる問題も少なくありません。歴史も公民も小学生になじみのない出来事が出題されることがよくありますが、文章・資料を落ち着いて読み取ってください。求められている答えはそれらのなかに隠されているため、先入観を持たずに文章・資料をすべて読めば答えられます。

成城学園中学校

※「入試の出題傾向」という形ではなく、「中学校入学までに身につけてほしいこと」として、以下の情報を公開しています。

算数

「整数・小数・分数についての四則計算（加減乗除）を素早く、正確に行える計算力」「問題文の意味および何を問われているのかを理解する力」「思考の途中経過を他人が見てもわかるように表現する力」「50 分間の授業に取り組める集中力」を身につけるよう心がけてください。

国語

本校の国語科では、中学入学までに小学校で学習した基礎的なことをしっかり身につけてほしいと思っています。まずは、「読解力」。説明文では書かれている内容を整理し、要点を押さえながら読む力、小説では場面の移り変わりや登場人物の心情の変化などを押さえながら読めるような力を身につけてほしいと思います。そして、「表現力」として、自分の考えや感じたことを正確に文章に表現する練習をしておいてください。こうした力を身につけるためには、さまざまな内容の文章に触れるなど、日ごろの読書量を増やすことが大切です。また、新聞を毎日読む習慣を身につけ、記事を要約してみるのも有効でしょう。さらに、小学校で学習する漢字の読みや書きがしっかりできるようにしておいてください。特殊な知識などを身につけることも大切ですが、まずは小学校で学習した基礎的なことを十分に身につけて入学してほしいと思います。

理科

小学校の理科の教科書にある内容について偏りなく勉強し、基礎基本をしっかりと定着させ、応用する力を身につけてほしいです。実験であれば、その結果から法則性を見いだし、その法則性を応用するということが重要です。観察の場合には対象物の特徴を見つけ出し、その特徴をまとめられる力をつけることが重要です。
また、中学校の実験では、その場で数値を計算する機会が増えます。その際、小数や分数を多く扱うため、これらを含んだ四則計算にも慣れておいてください。そして、実験結果から何らかの傾向を見いだすのにはグラフの活用が有効です。グラフをかく機会が多くなるため、まずはグラフを正しく読み取る力を養っておいてください。さらに、実験ではガスバーナーを用いることも多くあります。マッチの擦り方（火のつけ方）、ガスバーナーの点火方法、炎の調節の仕方などの実験操作に慣れておくとよいでしょう。

社会

①小学校で学ぶ地理、歴史、政治・国際の「基本的な知識」が必要です。小学校の教科書に書かれている内容について、特定の分野に偏ることなく、まんべんなく勉強し、基本的な用語や内容について理解しておいてください。

②身につけた知識をもとに表やグラフなどを読み取り、さまざまなこととの関連性や、共通性などを自分で考えられる「思考力」を身につけておいてください。「自分なりに分析したり考えたりする習慣」を持ってほしいと思います。
③自分で考えたことを「表現する力（書く力、話す力)」も必要です。物事の原因・理由や、自分で考えたことを文章にして書いたり、人前で発表したりする機会が、社会科の授業ではたくさんあります。そのため、「表現する力」も身につけてほしいと思います。
④主体的に学ぶための「知的好奇心」も大切です。授業を受け身で聞くだけでなく、何らかのテーマや事柄に対する興味・関心を持ち、主体的・積極的に取り組むことができる「知的好奇心」を持ってほしいと思います。

青稜中学校

算数

設問数は 15 問で、50 分の試験になります。1 問当たり 6 点または 8 点の配点で、答えのみを採点し、途中式に対する部分点はありません。内容は大きく八つに分かれています。一つめは計算問題が 3 問で、四則の演算力を問います。二つめは小問 4 問です。単位の換算、割合、約数や倍数の性質についての問題、速さと時間を求める問題など、さまざまな分野から出題しています。三つめ以降の大問は、身近な題材を使った文章題となっています。つるかめ算・相当算・旅人算などの特殊算や、図形の問題などです。基本的なものが多いので、時間配分に気を配り、確実に得点するように心がけてください。

国語

大問一（50～60%）では、小説や随想などの文学的文章を出題します。一般的な読解問題で、記述・書き抜き・選択肢など、さまざまな形式で登場人物の心情や人物像などを問います。大問二（20%程度）では、論理的文章を出題します。大問三（10～20%）は、ことわざ・慣用句・文法などで、いわゆる国語の知識問題です。大問四（10%程度）は、漢字の読み書きの問題です。文章を時間内に正確に読解する力が求められます。日ごろから、さまざまな文章に触れるようにしてください。

理科

大問 4 題の構成で、物理・化学・生物・地学の各分野から、ほぼ均等に出題します。問題数は 30 問程度で、簡単な記述や作図を出すこともあります。基本的な問題から、データ処理をする問題まで幅広く出題します。また、時事問題や環境に関連する問題もよくあるので、日ごろから、理科にかかわるニュースに耳を傾けるようにしてください。

社会

地理・歴史・公民から均等に 20 点分ずつ出題するので、社会全般にわたり、まんべんなく学習することが求められます。記号で答える問題以外は、すべて漢字などで正確に書く力が必要です。基本的な知識が定着していることを前提として、統計を読み取ったり、説明文の正誤を判定したりする問題を数多く出題しているので、しっかり準備しましょう。また、時事的テーマに関する問題を出すこともあります。

玉川学園中学部

算数

計算・短文・図形・統計・応用という構成です。計算では、分数や小数を含む四則混合の計算について出題します。基本内容をしっかり学習しておきましょう。短文は数の性質や割合など、幅広い分野から出題します。図形は平面図形・立体図形の分野から出題します。統計に関しては、グラフやデータから読み取って解答する問題を出題します。応用問題は時間配分に注意しながら解答してください。

国語

出題内容は、言語に関する問題と長文問題（説明的文章）1 題という構成です。言語に関する問題では、漢字の読み書きと熟語の構成、文法、ことわざや慣用句などについて出題します。長文については、5,000 字程度の説明的文章を読んで問題を解くことになります。内容理解を問う記述問題を必ず出題します。

理科

一問一答タイプの問題は、物理・化学・生物・地学の 4 分野からまんべんなく出題します。教科書の基本内容をしっかり学習しておきましょう。また、身のまわりの理科的事象や環境について、グラフや表などの資料を読み取る問題が出題されます。知識をたくさん身につけること、理科的事象に興味を持ち、「なぜだろう」と考え、調べてみることが大切です。

社会

歴史では、用語や人物名をはじめ、幅広い範囲の知識が必要になります。地理では、世界の国々の位置、都道府県の形や雨温図などについて問う問題を出題します。公民では、環境や時事問題について考えたり、グラフを読み取ったりして解答する問題を出題します。

英語

小学校で学習する基本的な内容から英検®3 級レベルの問題までを出題します。リスニング・リーディング・ライティングの 3 技能の運用能力を問う問題です。語彙・語法・文法の問題、長文読解、25 語程度の英作文などがあります。過去問題に繰り返し取り組み、慣れておきましょう。

※英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。

多摩大学附属聖ヶ丘中学校

算数

大問数は 5 題で、試験時間は 50 分です。小問は 20 問前後です。1は小数や分数を含む計算問題が 4 問です。2は「小問」として、いろいろな分野の問題を出題します。還元算・消去算・仕事算など「○○算」といわれる問題を習得しておきましょう。3～5は数量分野・図形分野・グラフの問題です。図形分野では、面積や体積ばかりでなく、長さ・角度・相似比・面積比などの考え方や解き方を身につけましょう。5では記述問題を出題します。

国語

大問数は 4 題で、試験時間は 50 分です。「漢字の読み・書き」は各 5 問で、「ことわざ・故事成語・成句」は 5 問を出題します。「視写」という問題では 150 字程度の全文カタカナ書きの文章を読み、小学校までに習った漢字とひらがなで書き直します。全文を読んで内容を理解して漢字を用い、読点もつけてください（句点は問題文に記されています）。この過程を通じて、読解力・理解力・語彙力を見ます。長文読解は説明文の場合が多く、問題文の長さや設問数（10 問程度）は、毎年同じくらいです。最後に 200 字の自由作文を出題します。長文問題の内容に関するもので、指示に従って考えや具体例、理由などを書いてもらい、発想力・表現力を見ます。難問や奇問はないので、日ごろから基礎的な学習に加え、本を読んだり、人とていねいなことばで会話したりするなど、言語活動を通じて、ことばに興味を持つようにしてください。

理科

大問数は 4 題で、試験時間は「社会」と合わせて 60 分です。1は「生物と環境」、2は「物質と変化」または「運動とエネルギー」、3は「地球と宇宙」の各分野から出題しています。4はさまざまな物事について理科の目線で捉える問題です。文章や図から情報を読み取る問題が多く出題されます。いずれも内容は基本的なものがほとんどです。問題文をよく読んで考える問いもあるので、ふだんからわからない問題があっても、すぐに解答や解説を見るのではなく、じっくりと考える習慣を養うことが大切です。特に実験や観察についての出題が多く、1～2 行で説明（記述）する問題もあります。

社会

大問数は 3 題で、試験時間は「理科」と合わせて 60 分です。どちらを先に解いても構いませんが、得意な教科を先にやる人が多いようです。歴史・地理・公民の各分野から出題します。いずれも A4 判 1 ページ程度の文章を読んで答える形式となっています。歴史は時代ごとの出来事を、地理は地形図を使った読図と地域の特徴を、公民は社会問題について理由や背景などを説明（記述）する問題を、それぞれ出題します。

中央大学附属中学校

算数

出題において重視するポイントは、「したたかな計算力」「論理的思考力」「図形や空間を把握する力」の三つです。「したたかな計算力」には、工夫により速く正確に結果を得る能力も含まれます。「論理的思考力」には、長文の問題文を最後まで読み解く読解力、グラフに表されたものを見抜く分析力、仮説を立てて、場合分けする問題整理能力も含まれます。「図形や空間を把握する力」では、回転したり、移動したり、切ったりといった「動き」に対する想像力も試されます。なお、「特殊算」については、参考書などで一通り学習しておくとよいでしょう。

国語

出題形式は例年と同様で、第 1 回・第 2 回とも大問 2 題で構成しています。大問の一つは文学的な文章で、小説もしくは随筆となります。もう一つは論理的な文章で、論説文もしくは批評文となります。どちらの文章も、他校の入試問題本文と比べて長めになっています。また、その難度についても、必ずしも低いものではありません。速く正確に読むことが求められます。設問は、各大問に 10 問以上設定され、さらに枝問や個々の設問のなかに解説文が組み入れられる場合があるので、かなりの分量になります。また、解説文や四者択一の選択肢の文にも比較的長いものがあります。設問文についても、何が問われているのか、何を述べているのかという点を的確に理解することが求められます。

理科

本校では、中学・高校を通して実験や観察を重視しています。自然や科学に関する基本的な知識とともに、実験・観察で得られた結果や、グラフ・表をみずから考える力や読み解く力が備わっているかを確認します。このため、ふだんから書物を読むだけではなく、自然界のさまざまな現象についてみずから疑問点を探し出し、探究しながら学ぶことも大切だと考えます。そのような観点から、身の回りの自然を題材に、その場で考える問題や時事問題も含めて出題しています。理科の全範囲から大問 3 題を予定しているので、グラフ・表を正しく読み解く力、知識だけに頼らず考える力、まとめる力、相手に伝える力を高めましょう。

社会

総合的な大問 2 題のなかで、地理・歴史・公民の各分野についてまんべんなく問います。多くは選択肢から正解を選ぶ設問となっていますが、語句を記す問題もあり、漢字での解答を求めることもあります。ある事柄について、自分の考えや簡単な説明を求める「短文記述問題」も出題します。教室のなかで学ぶ知識はもちろん大切ですが、問題意識を持ってふだんの生活を送ってほしいというメッセージを込めて、新聞やテレビで大きく取り上げられた時事ニュースや、日常生活にかかわりのある内容も盛り込んでいます。全体として、基本的な知識を習得しているか、いくつかの事実関係を関連づけて考察できる力があるかを確かめます。

東京成徳大学中学校

算数

【第１回一般選抜入試】

大問1は四則計算 5 問、大問2は計算および一行問題 6 問、大問3以降は応用問題で構成する予定です。四則計算では、整数・小数・分数の計算を正確に処理する力と、計算を工夫する力を問います。一行問題では、割合・比・平均などの基本事項を理解し、問題文から数量関係をとらえることが大切です。応用問題では、速さ・規則性・図形などを題材に、条件を整理し、筋道を立てて考える力を見ます。日ごろから図や表、式を用いて考える習慣をつけてください。基本問題や各大問の取り組みやすい設問を確実に得点できるよう、時間配分を意識して過去問に取り組みましょう。

【第１回特待選抜入試】

問題構成は一般選抜入試に準じ、各分野でより深い理解と思考力を要する問題を出題します。計算問題では、計算規則や数の性質を理解し、正確かつ効率よく処理する力が必要です。一行問題や応用問題では、与えられた条件をていねいに読み取り、図・表・式などを使って整理する力を問います。数の性質や規則性、速さ、図形などについて、解法や公式を覚えるだけでなく、「なぜそうなるのか」を説明できるようにしておきましょう。また、具体的な数で試す、場合を分けるなど、粘り強く考えることも大切です。難しい問題に対応する力とともに、基本・標準問題を確実に解く力を養ってください。

国語

【第１回一般選抜入試】

大問1「物語的文章」、大問2「説明的文章」、大問3「漢字」の 3 題で構成し、基本的な読解力と表現力を問う予定です。読解問題には、30 字程度や 60 字程度で答える記述問題を含みます。物語的文章では、場面や状況を正確にとらえ、登場人物の言動や描写を手がかりに心情を読み取る力が必要です。説明的文章では、接続詞のはたらきや文と文、段落と段落の関係を押さえ、筆者の主張を理解することが大切です。日ごろから読書や問題演習を通して語彙を増やし、読み取った内容を指定された字数でまとめる練習をしてください。漢字も継続して学習し、正確に書けるようにしておきましょう。

【第１回特待選抜入試】

基本的な出題構成と難易度は、第１回一般選抜入試に準じます。物語的文章では、出来事の流れと登場人物の心情の変化を結びつけて読み取る力を、説明的文章では、本文全体を通して筆者の主張をとらえる力を問います。抜き出し問題では、設問の条件を確認し、句読点も含めて正確に書き写すことが大切です。記述問題では、問われている内容に過不足なく答え、文末表現にも注意してください。日ごろからさまざまな文章に親しみ、内容を要約する練習を重ねましょう。漢字は、正しくていねいに書く習慣をつけてください。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野からバランスよく出題します。基礎的な知識の定着に加え、資料の読み取りや、実験・観察の結果をもとに考察する力を問います。用語や公式を覚えるだけでなく、自然現象の仕組みや、実験の目的・条件・結果を関連づけて理解することが大切です。表やグラフを読み取る際には、数値の変化や規則性に注目し、そこから何がいえるかを考えてください。計算問題では、数量の関係や単位を確認し、式を立てる練習をしましょう。理由を説明する記述問題では、根拠と結論を結びつけ、簡潔に表現する力が必要です。日ごろから「なぜ」「どうして」と考える姿勢を大切にし、知識を活用して問題を解決する力を養ってください。

社会

地理・歴史・公民の 3 分野から、バランスよく出題します。基礎的な知識に加え、資料を正確に読み取り、知識と結びつけて考える力を問います。地理では、地図や統計などの複数の資料を比較し、地域の特色や産業との関係をとらえることが大切です。歴史では、用語の暗記だけでなく、出来事の背景や因果関係を押さえ、時代の流れを理解しておきましょう。公民では、政治や社会の仕組みについて、具体的な事例と結びつけて学習してください。重要な用語は意味を理解し、正確に書けるようにしておきましょう。日ごろの学習でも、資料のどこを根拠に判断したのかを説明する習慣をつけてください。

東京電機大学中学校

算数

入学後に学ぶ「数学」へのつながりを考えた問題を出題しています。大問1では分数や小数の四則計算、（　）が含まれる計算、還元算などの計算問題を出題します。基本的な計算がうまくできていない状況では、「数学」の学習でつまずく可能性が高くなるので、速くて正確な計算力を身につけておきましょう。大問2では数の性質、割合、特殊算、図形などの小問を出題します。入試の定番となる解法パターンを習得しておきましょう。大問3以降では記述式問題を出題します。思考過程を重視して採点を行うので、受験生の皆さんも日ごろから「なぜその結果が得られるのか？」ということを意識して学習してください。

国語

物事を論理的に思考し分析するために不可欠となる「国語力」は、他教科を学び、理解するうえでの土台となる能力でもあります。本校の入試では、十分な語彙を身につけているか、他者の考えや思いを客観的に読み取れるか、自分の考えを論理的に表現できるかを見たいと考えています。例年、第1回・第3回入試は「文章題2題」「知識問題」「作文問題」「漢字の読み・書き」で構成しています。第2回は「知識問題」を課さず、代わりに「文章題」の読解問題を増やしています。また、第4回では「作文問題」を出題していません。「文章題」には記述問題もありますので、いずれにしても、日ごろから自分の意見や気持ちをことばで表現し、読んだ人が理解できるように考えて書くことを心がけてください。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野から基本的な内容を中心に、均等に出題します。また、環境問題、近年話題になった自然科学関連のニュース、身の回りで起こる自然現象などについての簡単な問題も出します。ふだんあまり気に留めない、日常の生活で当たり前と思ってしまっている現象や、身の回りにある変化を注意して観察してください。よく考えると非常に不思議なこと、驚くことが数多くあると思います。小さなことに疑問を持って、機会があるごとに調べてみましょう。

社会

例年、地理・歴史・公民の3分野から10問ずつを出題しています。内容は、時事問題を除けば、基本的な事項を問うものとなっています。歴史の範囲としては古代から現代までで、また政治史のみならず、文化史や経済史までさまざまな分野にわたります。したがって、単に用語を覚えることより、歴史の流れなどをきちんと理解することのほうが重要です。地理では地形図の読み取りを通して、その土地の成り立ちや特徴を答える設問が主流となっています。公民では新聞記事などを読み、そこから憲法や日本の政治制度について答える設問が主流です。時事問題はこの 1 年間の出来事から出題することが多いので、日ごろからしっかりとニュースに着目していてください。

東京農業大学第一高等学校中等部

算数

全体的な問題形式は前年度と同様で、計算問題、文章題、図形問題、思考的（作業的）問題で構成されます。第 3 回は試行錯誤や考え方を問う問題があります。第 4 回は考えた過程を記述する問題があります。計算技能の確かさ、定理・法則を活用できる力、数量や形をイメージする力、情報を整理整頓できる力、文章を理解する力、試行錯誤できる力などを求めます。

国語

第 1 回・第 4 回は、漢字の問題と文章題 2 題（説明文・物語文）とで構成されています。第 2 回・第 3 回は例年同様、漢字の問題と文章題（説明文 2 題）という構成です。文章量は多く、本文に書かれていることを時間内に正確に読み取る力が求められます。内容をかみ砕き、選択肢を吟味できるかが重要です。文章のテーマは自然科学や人文科学、社会科学など幅広く出題されます。漢字は「とめ・はね」を見ます。

理科

理科の基本となる内容や、身の回りの現象をテーマに、物理・化学・生物・地学の 4 分野から出題します。「知識や原理・法則の定着と活用」「情報の読み取り」「グラフ・表の内容把握」「考察や原因の究明」「自分の考えた道筋を表現する記述問題」などで構成します。知識の正確さ、原理・法則を活用する力、グラフ・表から情報を読み取る力、考えた道筋をわかりやすく伝える力などを求めます。

社会

地理・歴史・公民の 3 分野から出題し、人名・地名・事件名など社会科としての基礎・基本を確認します。地理分野では、雨温図・地形図・統計グラフなどを正確に読み取れるかを、歴史分野では、時代ごとの政治・経済社会・文化の違いを理解しているかを、公民分野では、時事問題を含む世の中の出来事に興味・関心があるかどうかを見ます。人名・地名・事件名などについては、漢字指定の場合があります。また、地理・歴史分野から記述問題を出題します。

東洋大学京北中学校

算数

【1】出題内容と傾向

大問数は 5～6 題です。大問1は計算問題と短文問題です。大問2～6は応用問題です。応用問題は、図形や規則性に関する問題、整数問題、速さに関する問題などいろいろな分野から出題します。

【2】対策

①計算問題

小数や分数が含まれた四則計算を中心に、計算の工夫をすると解きやすくなるもの、空欄を求める逆算などを出題します。毎日少しずつ練習し、計算力を身につけてください。

②短文問題

数量分野・図形分野から幅広く出題します。内容は、相当算、売買損益、濃度、場合の数、平面図形の角度・面積、立体図形の断面、展開図などです。基本問題を重点的に繰り返し練習してください。

③応用問題

図形に関しては面積や体積を求める問題だけでなく、「平面」「立体」の複合問題も出題します。問題文をしっかり読み、内容を理解して答えるような新傾向の問題も出題します。また、考え方や途中の計算式を書く記述式の設問もあります。部分点がありますので、途中の式を書く練習をしておきましょう。

④全体として

難問･奇問を出題することはありません。受験の標準レベルの問題を中心に学習してください。

国語

【1】出題内容と傾向

大問数は 4 題で、語句・文法・漢字などの知識問題が 1 題、文章読解問題が 2 題、そして 150 字以内の記述問題が 1 題という構成です。配点は、「語句・文法・漢字知識問題」が 2 割、「文章読解問題」が 6 割、「記述問題」が 2 割を目安としています。

①大問1　語句・文法・漢字・文学史など

漢字は小学校高学年で学習したものが多く取り上げられます。慣用句・四字熟語など、ことばのきまり、詩や俳句の表現などについても出題します。

②大問2・3　文章読解問題

取り上げる文章のジャンルは、物語文（または随筆）と説明文です。物語文は、登場人物の心情をはじめとした文章表現の理解に重点を置いて出題します。説明文は、環境問題や文化論、哲学などのさまざまなジャンルから出題します。設問も、文章の流れや内容の理解、語句の補充、指示語が指し示す内容、そして自分のことばで説明する問題など、幅広く組み合わせて出題します。

③大問4　150 字以内の記述問題

与えられたテーマについて自分の考えを制限字数内でまとめるという形式です。採点に際しては、考えの内容自体を点数化するのではなく、考えたことや感じたことを順序立てて自分のことばで表現できているかどうかをまず確認します。

【2】対策

3000 字以上の少々長めの文章を読解できるような力が必要となります。筆者の意見や登場人物の心情など、文章表現の意味や意図について考えながら読んでいけるようにしてください。そのためには、さまざまな文章を読んで慣れることが大切です。また、文章を読むためにも、さらには漢字や語句の問題に答えるためにも、ことばに関する基本的な知識を幅広く身につけてください。

大問4に 150 字以内の記述問題があります。例年、正解がないことをテーマとして出題していますので、ふだんからさまざまなことに疑問を持ち、自分の意見を考える習慣をつけておくことが大切です。

理科

【1】出題内容と傾向

大問数は 4 題の構成です。大問1～4は、物理・化学・生物・地学の各分野から 1 題ずつの出題です（第 2 回のみ大問数が増えます)。いずれの問題も基本的な事柄をもとにした内容です。実験や観察を題材とした問題も含まれます。そして、科学的な事柄についての説明や考察、数量的な計算、理由を述べる問題も出題します。

【2】対策

理科は物理・化学・生物・地学分野からなるため範囲が広いです。また、どの分野もまんべんなく出題しますので、バランスよく学習することが求められます。しかし、どれも小学校で学んだ事柄を利用して考える問題です。教科書や問題集を用いて演習を繰り返す学習を続けることにより、高得点を狙うことも可能です。また、実験や観察についての出題がありますので、グラフや表からデータを読み取る学習、結果から考察する学習を心がけてください。

社会

【1】出題内容と傾向

大問数は 3 題で、地理・歴史・公民の全分野から出題します。配点の目安は、地理分野から 20 点、歴史分野から 20 点、公民分野から 10 点の合計 50 点満点となります。基本的な事柄を幅広く出題する傾向になっています。解答形式は各分野とも、用語の記述と記号の選択だけではありません。グラフや資料から読み取ったことをもとにして、社会的な事柄についての考えを述べる問題も出題します。また、社会科的用語については漢字で書くことが必要となります。

【2】対策

社会科では、次の三つの実力（姿勢）を持った人に入学してほしいと考えて作問しています。

一つ目は、小学校で習得する基本的な学力・知識をしっかりと身につけていることです。二つ目は、社会的事象について、時事的なことや応用的なことも含め、多方面にわたり興味と関心を持っていることです。三つ目は、資料などに基づいて社会的事象について考え、問題の指示に従ってみずからの力で問題解決に当たる意思を持っていることです。このようなことからも、入試では最後まであきらめずに問題を解く姿勢がとても大事になります。わからない問題があってもすぐに投げ出さず、落ち着いて問題を読んで解答の糸口を探し出してください。

日本大学第二中学校

算数

解答方法は答えのみを書く記述式です。読み取りやすいよう、ていねいに答えを書きましょう。計算問題や基本的な文章題、図形の問題を計 10 題出題します。正確に計算できるよう、ふだんから計算ミスなどに注意しておきましょう。応用問題では、平面図形・立体図形などの問題のほか、グラフや表を読み取る問題などもよく出題されます。過去の入試問題を繰り返し解き、傾向をつかんでおきましょう。問題文に書かれている条件・内容をしっかりと読むようにしてください。

国語

国語の問題は、知識、小説、説明・随筆の三つから出題されます。知識で出される漢字や慣用句の問題は、毎日の練習が大切です。続いて、小説、説明・随筆の問題はだいたい 3000 字から 4000 字の問題文となるので、ある程度の読むスピードが求められます。日ごろから文章を読むときに、小説ならば気持ちとその気持ちにいたる原因を、説明文ならば「何は何だ」の「何だ」の部分に線を引きながら読む習慣をつけ、その練習のなかで読むスピードを上げていきましょう。

理科

物理・化学・地学・生物といった 4 分野からバランスよく出題するため、苦手分野を作らないように、まずは基本内容を中心に勉強することが大切です。記号問題だけでなく、語句などを書かせる問題も出題されるため、正しい漢字や語句も書けるようにしておきましょう。試験時間は社会と合わせて 50 分で、どちらから先に解答しても構わないため、計算問題や思考力を問う問題に時間を残したほうがよいと思います。そのため、過去の入試問題を理科・社会で 50 分の時間設定にして解いてみましょう。

社会

まずは小学校の教科書をよく読むことから始めてください。その際、用語を暗記するだけではなく、理解を深めることが大切です。なお、用語や人名・地名などは漢字で正しく書けるようにしておきましょう。いちばん大切なことは、基本的な内容を正確に学習することです。また、日ごろから時事問題にも関心を持つようにしてください。本番の試験時間は理科と合わせて 50 分です。解答の順序や時間配分に指定はありません。解ける問題から順に解いていきましょう。

広尾学園中学校

算数

第 1 回から第 3 回までの問題では、計算力や知識の確認のほか、解法のテクニックや暗記に偏ることなく、「問題文から条件を整理し、分析する力・考える力」があるかを問います。記述問題については、「試行錯誤して情報を整理し、それらを分析・考察して答えを導く力」を問います。医進・サイエンス回の問題では、上記の記述問題のポイントに加え、日ごろから算数にどのくらい興味を持って取り組んできたか、またどのような考え方をして問題を解いているかを見ます。応用問題は規則性・割合・速さ・平面図形・空間図形・整数問題・場合の数などから出題します。応用問題中の記述問題では、答えに至るまでの過程を問うので、その過程を記述できるようにしておきましょう。

国語

国語の問題では、受験生の皆さんが日ごろからことばに対してどのように接しているのか、さらに文章をどの程度まで深く読み、その内容を通して自身の思考を深めているのかを問います。語彙に関する問題では、ことばの知識を幅広く問うだけでなく、その知識をどのように使えるのかという語彙運用能力も問います。小説の読解問題では、場面構成や登場人物の心情を客観的に把握したうえで、それらを適切な表現によって記述する能力が必要となります。評論の読解問題では、文章の要旨や構成を整理しながら読み取り、提示されたテーマや筆者の考えを自分のことばで整理し、叙述していく文章表現力が必要となります。医進・サイエンス回の評論・論説文は、科学的な思考を問う文章を出題します。抽象度の高い文章が出題される可能性もありますが、科学的な思考を問う文章に慣れておくことがポイントです。

理科

第 1 回から第 3 回までの入試問題では、基礎的な知識をもとに、出題されている資料や条件などから考えられるかどうかを問います。教科書や中学入試向けの参考書・問題集で扱っている題材についての出題が中心ですが、一般的な問題とは異なる視点から出題することがあります。医進・サイエンス回では、中学入試向けの教科書や参考書などではあまり扱っていない題材から多く出題します。知らない内容であっても解答できるよう会話文や文章を長めにとり、ていねいに説明を加えています。提示されている条件や結果などの情報を整理しながら実験や現象をとらえていくことが大切です。出題する順番は必ず、物理・化学・生物・地学の順です。自分の得意な分野から解答していきましょう。わからない問題があれば時間をかけすぎず、すべての問題に目を通すことをお勧めします。

社会

社会は地理・歴史・公民・論述の 4 分野から出題します。各分野とも、資料（史料）・グラフ・地図・写真資料から答えを読み取る問題が多くなっています。資料などを読み取る練習も必要ですが、このような問題は基本知識を前提としていますので、基本知識もしっかり勉強してください。最後の大問は論述問題です。論述問題は対策しにくい分野ではありますが、

過去問題集などを活用してください。また、論述問題は書かないと点数にはなりません。誰でもいきなりは書けないので、「書く」練習を重ねることが大事です。書いたら、その内容が人に伝わるかどうか、塾の先生に添削をしてもらうとよいと思います。

文教大学付属中学校

算数

全範囲からまんべんなく出題します。例年、答えの求め方（計算過程や考え方）を記述させる問題が 2 題あります。計算の練習を何回も繰り返して、速く正確に解けるようにしておきましょう。大問1の計算問題など、基礎的な問題でミスをしないことが合格につながります。確実な計算力を身につけましょう。当日までに、時間を計って過去問を解いてみてください。その際、落ち着いて文章をしっかり読むように心がけましょう。また、確かめ算も忘れずにしましょう。

国語

まずは、自分で過去問を数年分解いて、「毎年どのような文章や問題が出ているのか」をつかむことが大切です。解きながら、「時間内でしっかり読み、かつ解き終わるには、どのくらいのペースで読み、解くのがよいのか」という文章を読むペースや、解く時間の配分を自分自身で体得することが必要です。説明文・小説の内容や表現技法に関する問題、文法、漢字の読み書きなど、一般的な問題集に出てくるような基本的な出題となっています。

理科

小学校で学習した内容が中心となります。物理・化学・生物・地学の各分野で、用語だけでなく、現象の説明や実験の考察などの記述問題、計算問題、身の回りの理科的な出来事や実験の問題も出題されます。毎年出題されている問題もあるので、市販の問題集の基本問題を繰り返し解いて、慣れておいてください。60 分間で社会と理科を解かなくてはならないため、素早く、確実に解ける力を身につけてください。

社会

地理分野・歴史分野・公民分野それぞれについて出題します。小学校で学んだ内容が中心となります。また、時事問題やユネスコ世界遺産に関連した問題もあります。新聞やニュースをよく見ておきましょう。資料（グラフ・図など）や地図を読み取る力を身につける必要があります。統計データは過去にもさまざまなものが出題されています。よく確認しておきましょう。理科と同様に、1 問 1 問に使える時間は短いです。素早く、確実に解く力を身につけましょう。

法政大学中学校

算数

中学校に入ってから必要とされる基礎的な学力を見るために、基本問題を中心に出題します。計算力をつけるのはもちろん、特殊算、速さ、割合、場合の数、図形問題など、あらゆる分野において、基本から標準レベルまでの問題を数多くこなしておいてください。なお、解答欄は答えのみを書く形式です。

国語

物語的文章と説明的文章の読解問題を、大問として 2 題出題します。選択肢問題が主流ですが、抜き出し問題や記述問題もあります。また、漢字の読み書き、慣用表現、接続詞・品詞の識別も出題します。書かれている内容を正確に読み取り、論理展開を押さえる演習をしておいてください。

理科

物理・化学・生物・地学のどの分野からも、基本的な問題を中心にバランスよく出題します。基礎的な知識を身につけるとともに、実験や観察の結果を確実に読み取り、考察できる力を養うようにしてください。また、自然や科学に関するいろいろな話題について、ふだんから関心を持つようにしてください。

社会

地理・歴史・公民の各分野から出題しますが、分野ごとの割合は必ずしも均等というわけではありません。特に、基礎的な学力を見ることを重視します。問題文や資料を確実に読み取って、自分の知識と結びつける力が必要です。また、資料や図表などからわかったことを記述する力も求められます。日ごろからニュースなどに関心を持って学習に取り組むようにしてください。

三田国際科学学園中学校

算数

大問は 4 題です。基本問題は計算が 1 題で、そのほかは一行問題となります。割合・速さ・規則性・図形など幅広い範囲から出題します。応用問題は、融合問題やデータを読み取る問題です。情報の整理、図式化を習慣にしておくことがポイントです。思考力問題では途中点を採用しており、記述が必要になります。傾向としては、与えられた問題文のなかから規則を読み取り、理論を構築し表現するようなものです。「なんでだろう？」という気持ちを大事に、その根拠を自分で探し、自分のことばで表現する学習を重ねることが大切です。

国語

大問は 3 題で、説明的文章から 1 題、文学的文章から 1 題、そして語句の知識などを問う問題を 1 題出題します。説明的文章では、言語や思考、社会問題に関する文章がよく出題されます。文章は長い場合、4000 字を超えることもあります。時間を計りながら読み、解く練習が必須です。各設問では、文章を客観的に読解する力を問う問題を土台とし、記述問題は全体で 5〜6 問出題されます。国語で思考力を鍛えるには、文章中や日常生活で出会った「よくわからないこと」について、まずはおもしろがって考えてみること、そして自分なりの答えを言語化（ことばにして他者に説明）することです。皆さんの場合は、小学校低学年の児童が聞いても理解できる説明をイメージするとよいでしょう。

理科

基本的に単元の偏りなく出題します。身近な現象を例に挙げ、知識や応用力を問う傾向にあるので、日常的な経験を科学的な視点でとらえるトレーニングを重ねましょう。また、グラフを読み取り、そこで得た情報を組み合わせて答える問題もよく出題しています。図を理解するだけでなく、得た情報をみずから図に表して整理する習慣をつけておきましょう。思考力問題では、実験計画について問うことがあります。その際は、問いを立てる、仮説を立てることから始まるものもあれば、実験方法を考え、結果や考察を解答するものもあります。日ごろから「なぜ？」という視点で科学的に日常を見る姿勢があるかどうかが問われます。

社会

地理分野は、主に日本地理（一部に世界地理が含まれる場合もあります）で、特に産業・自然・文化などが中心になります。歴史分野に関しては、特定の分野に偏ることなく、テーマ史という形式で横断的な出題をします。資料問題もあるので、幅広い学習を心がけてください。公民分野は、政治・経済・国際関係・環境から出題します。時事に関する論述問題もあるので、ニュースや新聞で報じられていることをただ覚えるだけではなく、「なぜ起こったのか？」「なぜそのようになるのか？」を意識して学習してください。そのためにも、問題文だけでなく本文もよく読み、出題者の意図を把握してください。そのうえで、「自分はこのように考える」などと“考える”姿勢を培ってください。

明治学院中学校

算数

基礎的な学力（全範囲にくまなく取り組んでいるか)、論理的な思考力（問題をていねいに読み解き、解答までの道筋を見いだせるか)、問題に取り組む姿勢（途中で投げ出さずに、粘り強く立ち向かえるか）の三つの観点から、計算問題・文章問題・図形問題など幅広い範囲から出題しています。

大問1では例年基礎的な内容の問題を 10 題出題しています。多くは計算問題ですが、それ以外に、数に関する問題・面積を求める問題・グラフを読み取る問題なども出題することもあるので、取り組んでおいてください。大問2～5は、割合、濃度、速さ、規則性、場合の数などの問題を出題します。各大問の（2）以降の正答が算数の点数の差につながるので、少し難解な問題にも対応できるようにしておいてください。大問6は例年、作図を含む問題を出題しています。定規、コンパス、分度器の扱いに慣れておき、解答欄からはみ出ないように、正確な図を描けるようにしてください。

解答としてていねいに表記されていない、読み取りにくい文字での解答が年々増加しているので、書き順を正しく、ていねいに書くように心がけてください。単位は解答欄に記入されているので、わざわざ書く必要はありません。

国語

毎年､問題構成に大きな変化はなく､大問一は長文の読解問題､大問二以降は詩歌の鑑賞、敬語、慣用句や漢字などの知識問題を出題しています。

長文については物語文・説明文・随筆とさまざまなジャンルの文章から、ある程度まとまった長文読解の問題を出題し、文章全体の理解、傍線部の意味や内容の正確な読み取り、文章の構成や表現方法の特徴の把握など、総合的な読解力を見ています。また、詩歌などの読解を通じて感受性の深さ、詩歌に関する基礎知識、あるいは敬語・慣用句・漢字などの基本的理解の到達度を確認しています。とりたてて難しい長文を出題することはなく、文章を逸脱した形での質問はありませんので、日ごろから落ち着いて文章を読むように心がけることが大事です。詩歌についても同様で、詩歌に描かれている情景を想像できるよう、ことばを大切に読むように注意してください。また、詩歌の基礎知識や慣用句は、教科書などを参考にして確認しておいてください。

漢字については、必ず「読み」と「書き」が出されます。小学校の範囲の漢字や読み仮名をていねいにしっかり書くように心がけましょう。

入試問題を通して、日常生活のなかで必要とされる「国語力」を見ています。日ごろからさまざまなジャンルの文章に触れるようにしてください。要点をつかむ力、流れのなかで重要な点を見抜く力をぜひ養ってほしいと思います。

理科

小問集合の形式での出題を中心としつつ、知っていることでなくても文章や表やグラフを読み取って理解し、解答を導く問題を出題します。設問に対してただ単に知識を反射的に答えるだけでなく、数値や文章を読んで理解し、考える力を、理科としても入試で問いたいと

いう狙いを持っています。
例年、おおむね正答率 50%以上の問題を取りこぼさなければ、60 点満点中 36 点（6 割）以上の得点が取れると期待できます。基礎的な知識を問う出題を基本としつつも、文章や数値・グラフの意味を考えて解答する問題も増え、難化している傾向もありますので、以下の点を参考にしっかりと対策をしましょう。
①教科書や問題集、資料集などを活用し、基礎的で重要な事項を整理するように学習を進めてください。小学校で学ぶ全分野をまんべんなく学習しておく必要があります。
②択一問題が中心ですが、語句や数値を解答してもらう出題もあります。教科書や資料集などに漢字で書かれている語句は、しっかりと漢字で書けるように練習してください。また、濃度（濃さ）や速さ、てんびんやてこのつり合いなどの計算はできるようにしておきましょう。
③長い文章や数値やグラフから意味を考えて解答する問題では、「見たことない問題だから」とすぐあきらめずに、根気強く読み取って考えることが必要になります。取り組みやすい問題を先に解いて、しっかり取り組む時間をつくる練習をしましょう。
④身近な動植物や天体の動きに関する出題が毎年ありますが、正答率が低くなる傾向にあります。日常の生活から、自然現象や動植物、天体の動きや見え方に興味を持って接する機会を大切にしてほしいと考えています。

社会

地理・歴史・公民の 3 分野から、教科書の内容や時事問題から出題します。
地理の問題では、地形図の読み取りに慣れておきましょう。表やグラフを読み取る学習も必要です。また、説明文の読み取りや計算問題ができるようにしておきましょう。
歴史の問題では、歴史用語や人名を問う問題は漢字で解答できるようにしましょう。難解な人名なども漢字で答えられるようにしておきましょう。時代の順番に並べ替える問題は、歴史の流れを考え、歴史上の出来事の因果関係に注目して理解しておいてください。
公民の問題では、文章を読んで答える問題が多く出題されます。時事問題もあります。新聞記事などの文章に慣れておき、日ごろから報道されるニュースに親しむ習慣をつけておきましょう。
地名・人名や歴史用語、都道府県名などは、きちんと漢字で書けるようにしましょう。文章を正確に読み取ることも必要です。知識の丸暗記にとどまらず、出来事の内容や特徴・原因・結果・目的などを理解して、説明できるようにしましょう。
目立った漢字の間違えは多くありませんでしたが、説明を求める問題は、正答率が低い傾向があります。知識の丸暗記にとどまらず、出来事の内容や特徴・原因・結果などを理解して、説明できるようにしてください。年代順に並べ替える問題では、正確な年代を覚えていなくても、順序立てて歴史を理解しておくことが大切です。地図や表・さまざまなグラフ、説明文などの読み取りができるように学習しましょう。距離や時差・割合の算出などの計算問題もできるようにしておいてください。経済や国際時事問題に関心を持つことも必要です。また、公民分野だけでなく、歴史分野も新聞記事を題材にした出題がありました。日ごろから新聞記事に触れておくとよいでしょう。

明治大学付属明治中学校

算数

「特殊算」を含め幅広く出題しています。1は答えのみを記入します。2以降の問題は、すべて式や考え方も書く記述式の設問です。図や方程式などでも結構です。また、2以降は答えのみでは点を与えませんが、過程が合っていれば部分点を与えることもあります。

国語

通常は長文1～2題です。漢字の書き取りや日本語に関する知識問題（慣用句・ことわざ・四字熟語など）も出題します。読解問題は記述式の設問が多いです。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野からまんべんなく出題します。いずれも実験や観察、身近な事象からの出題が多くなっています。物理や化学では計算問題も、生物では記述式問題が出題されることもあります。

社会

地理・歴史・公民の各分野に加え、時事問題もよく出題します。分野をまたいだ融合問題や記述・論述形式での出題もあります。地名・人名・用語は、教科書で漢字が使われているものは、解答でも漢字で書かれていないと、原則として不正解とします。

明法中学校

算数

試験時間は第 1 回午前が 50 分で、第 1 回午後と第 2 回午前・午後・第 3 回は 40 分です。配点はすべて 100 点です。大問は 5 題あり、計算問題、基礎知識を見る小問と、思考力を見る問題を出題します。過去問を中心に学習し、特に例年出題される分野は、どんな形式で出題されても大丈夫なように、問題集などでしっかり解法を身につけておくことが大切です。また、計算はていねいに行い、ケアレスミスによる失点をしないよう注意してください。

国語

試験時間は第 1 回午前が 50 分で、第 1 回午後と第 2 回午前・午後・第 3 回は 40 分です。配点はすべて 100 点です。大問が 2 題で、1 題は論理的な文章、もう 1 題は文学的な文章が題材となります。基礎的な問題としては、漢字の書き取りと読み、語句の意味や適切な接続語の選択などを出題します。この分野では確実に得点できるようにしましょう。応用的な問題としては、内容把握（選択式・記述式）を出します。作文は第 1 回午前にあります。配点は 15 点程度で、字数は 150 字程度なので、8 割以上は書いてください。日ごろから自分の考えや気持ちを相手に伝えられるよう心がけて文章を書く練習をしましょう。

理科

入試科目に理科のある第 1 回午前・第 2 回午前とも、試験時間は 30 分で、60 点満点です。物理・化学・生物・地学の各分野から偏りなく出題します。内容は理科についての基礎的な知識問題、実験や観察から考えていく問題、身の回りの理科的な事柄についての関心を見る問題です。基礎的なものが多いので、まずは基本問題を繰り返し学習して、知識を確かなものにしましょう。

社会

地理・歴史・公民の 3 分野から出題します。地理分野では必ず地形図に関する問題を出題します。都道府県の名称は漢字で書けるようにして、なおかつ位置も答えられるようにしましょう。公民分野では時事問題もあります。試験時間は第 1 回午前・第 2 回午前とも 30 分で、60 点満点です。配点は各分野とも均等です。過去問を研究して傾向をつかみ、よく出題される基礎的な知識を固めておきましょう。

適性検査型入試

第 1 回午前に行います。都立立川国際中等教育学校をはじめ、公立中高一貫校の受検生向けの問題を作成し、適性Ⅰ型・Ⅱ型を実施します（Ⅲ型は実施しません）。

目白研心中学校

算数

計算問題（工夫して解く計算問題も含む）や基本的な一行問題と、濃度、場合の数、割合、速さに関する問題、図形（平面・空間）などの応用問題を出題しています。計算力と標準的な問題の解法を問う出題がほとんどなので、ふだんから計算問題と典型的な文章題を繰り返し練習してください。基本的な問題が解ければ合格に、応用問題が解ければ特待生に届きます。また、「理数プレミア入試」の算数の問題も同じ構成で出題します。過去問を参考に学習してください。

国語

大問一は漢字の読み書きの出題になります。いずれも小学校段階で習う基本的なものです。大問二は説明的文章、大問三は文学的文章の読解問題となります。文章題にも語句の問題や、接続する語を補充する問題などの出題があります。大問四は文法、慣用句、ことわざ、敬語の使用法などの問題が出題されます。ふだんから漢字や語句、文法の知識を身につけ、長い文章を読み慣れる学習に取り組みましょう。

理科

「運動とエネルギー」「物質と変化」「生物と環境」「地球と宇宙」の各分野から大問で 1 題ずつ出題します。配点は大問 1 題につき約 25 点です。時間は理科と社会合わせて 60 分です。理科のテストは 30 分で解答できる量にしてあります。実験・観察をもとにした問題や、表やグラフを読み解く問題も出題します。基本事項をしっかり理解し、表やグラフも読み解けるようにしてください。

社会

地理的分野からは日本の八地方区分に基づいた各地方について、歴史的分野は原始から現代までの日本の歴史を、公民的分野では三権（立法・司法・行政）、憲法などについて出題しています。問題の配分は大問 1 の地理的分野が 40 点、大問 2 の歴史的分野も 40 点、大問 3 の公民的分野は 20 点です。各大問はそれぞれ独立しているので、得意な分野から解いていくとよいでしょう。解答を漢字で正しく書けるように、日ごろから心がけて学習してください。

英語（英語アドバンスト入試）

事前に示されたテーマについて、あらかじめ提出した『プレゼンテーション資料』を用いて英語でプレゼンテーションをしてもらいます。『プレゼンテーション資料』は、「自己アピール : 1 スライド、課題発表 : 3 スライド以内、参考文献等があれば一覧にして : 1 スライド」でまとめます。プレゼンテーション後、その内容について英語で質問しますので、英語で答えてください。また、最後にアンケートに記入した内容等について、日本語による質疑応答があります。

※プレゼンテーションのテーマなどの詳細については、本校ホームページでご確認ください。